

栃事研会報

第 89 号 平成 29 年 3 月 10 日発行
栃木県公立小中学校事務職員研究協議会
編集発行人 廣田 則子

<主な内容>

- 副会長あいさつ・・・ p 1
- 事務研究大会・・・ p 2
- ステージⅣ研修・・・ p 3
- 共同実施推進会議・・・ p 4

栃事研HP <http://tochijiken.org/>

副会長あいさつ

栃事研副会長 永井弘訓

2017年も早いもので立春を過ぎました。寒い日は続いておりますが、学校を含め社会全体が、春に向けて僅かながら動き始めた、そんなことを感じさせる今日です。会員の皆様には健やかな新年を迎えられ、ご健勝にてお過ごしのことと推察いたします。

私事ではありますが、昨年5月の総会で承認を受け副会長に就任しました。不安の中で8か月余りを過ごしてきました。その間に日本連合教育会栃木大会・関ブロ長野大会での提案発表、研究大会の企画・運営など大きな行事に参加することができました。また会の運営や各種研修会の主催、全事研調査など多岐にわたる仕事に携わり、その都度誠意と熱意をもって頑張る若い事務職員の皆様を見て、頭の下がる思いでいっぱいでした。この努力があって、当たり前のように本会が運営されていることを肌で感じることができました。副会長として微力ではありますが、もっとリーダーシップを発揮し彼らの支援、援助を積極的に行い、会の発展のために努めなければならないと心新たにしたいところです。

さて「継続は力なり」という言葉があります。栃事研ではこれまで、学校事務ビジョンと中期研究計画の二つの柱のもと、継続的・系統的な研究・研修活動に取り組んできました。この努力が今若者たちの「力量」につながっていると考えます。会員の皆様の御理解と御協力をいただきながら、これからもみんなで力を合わせて活動を進めていきたいと思っております。

その中で、今まさに、私たち事務職員も世代交代の時期を迎えています。仕事の質や安定性・継続性等を不安視する声も聞こえてきます。学校現場に支障が出るのが最も危惧されることとなります。若い人たちの力量形成とリーダーの養成がこれからの大きな課題となってきます。そこで大切なのが、共同実施になります。一日も早く導入して不安感を払拭し、子どもの学びの充実を図るとちぎの学校事務創造に向かっていくことが大切になります。

私も栃事研の副会長として、皆様と共に学校現場が少しでも良くなるよう、本会の活動が更に充実していくよう精一杯頑張りたいと思っております。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

平成28年度栃木県公立小中学校事務研究大会

12月2日(金)、栃木県教育会館に於いて平成28年度栃木県公立小中学校事務研究大会が開催されました。今大会では「子どもたちの未来のために！私たちのアクティブ・アプローチ」をサブテーマに設定し、「学校経営参画」について考えました。

開会式では、県教委、県PTA連合会会長、県小学校長会会長、県連合教育会会長からご祝辞をいただきました。引き続き、平成28年度「とちぎ教育賞」を受賞された3名の方の表彰式が行われました。

休憩を挟み、吉田栃事研副会長により今大会のねらいが説明されました。次に南那須地区が「教育活動を支える学校事務を考えよう」～個々の資質向上をめざして～をテーマに、地区発表を行いました。南事研、那珂川町事務研、那須烏山市事務研の三つの節に分かれて、各地区の現状、研修の実践報告が行われました。

南事研は、会員13名のうち事務長11名という現状で世



交代による学校事務の機能低下が懸念されており、経験の伝承としてベテラン事務長が伝えたいことを「先輩事務長講話」として行っていると、実際に講話を行った事務長による説明がありました。また、個人別に行っている事務処理紹介、外部講師を招いての研修等について、研修の内容として発表がありました。

続いて「子どもたちのよりよい教育環境を目指して」を研修テーマとして活動している那珂川町事務研が、新採事務職員に対する事務支援、財務処理の手引き等の事務支援資料の整備、について発表されました。

「山あげ祭」の映像を挟んで、最後に那須烏山市事務研が「学校事務の効率化に関する事務改善の実践」をテーマに、事務様式改正等の事務改善事例、就学援助費支給事務、ネットワークを利用した学校間連携、共同実施について発表されました。

全体研究会Ⅰでは、今年度二つの研究大会で行われた分科会提案の概要と報告、そして研修カリキュラムの開発についての説明が行われました。まず、栃事研研究部より、第48回関東地区学校事務研究大会第2分科会提案で発表した、事務職員の専門性を活かした経営参画の在り方についての概要と、研究討議、指導助言、成果と課題等について報告がありました。次に、第68回日本連合教育会研究大会栃木大会第10分科会提案の報告がされました。学校、家庭、地域社会と連携した活動とそこに果たす学校事務機能や共同実施の役割と、共同実施組織を活用した地域連携について、実践事例から効果や課題についての提案が説明されました。



続いて、栃事研ビジョン推進チームからは、「研修の体系化」に基づく「研修のカリキュラム」～事務職員研修のテキスト化について～と題し、研究大会当日に配布された『とちぎの研修プログラム』についての説明をしました。この研修プログラムは、これまで栃事研が実施してきたステージ別研修や栃事研セミナー等で蓄積してきたActionシートによるデータを活用、分析、整理し、プログラムにまとめたものです。各地区や支部、共同実施の実情・実態のねらいに合わせてテキストを是非活用してください。

全体研究会Ⅱでは、「学校事務職員のキャリア・リデザイン」ー縮小社会を生き抜く児童生徒の育成のためにーと題し、名城大学大学院 大学・学校づくり研究科教授 木岡一明 氏より、ご講演いただきました。学校と地域との協働がますます重要となっていく中で、これからの事務職員が果たす役割やそのために必要な資質・能力についてお話しいただきました。後半では、これからの事務職員として目指す姿を、ワークシートを用いて会場の皆様と共に考えました。

受賞おめでとうございます

さくら市立上松山小学校 事務長 井上 茂夫

「とちぎ教育賞」受賞にあたり、今までご指導・ご支援等いただきました皆様に心から感謝申し上げます。その出会いを大切に、これからも誰かの役に立てるような意味ある仕事ができるように努力していきたいと思えます。

大田原市立黒羽中学校 事務長 大金 克彦

「とちぎ教育賞」という身に余る賞をいただき大変恐縮しているとともに、このような賞をいただけるほどの功績を残してきたのかと自問いたしますと、内心忸怩たるものがありますが、これまで支えてくださった皆様のおかげと感謝しております。今後も、「おかげさま、感謝」の言葉を心に留め置き精一杯頑張る所存ですので、御指導の程よろしくお願いたします。

栃木市立大宮北小 事務長 押山 浩

とちぎ教育賞受賞に際しまして、皆様よりお祝い等をいただき誠にありがとうございます。諸先輩方からいただいた御指導への恩返しを、これから活躍する若い事務職員たちへの支援を通して果たしていきたいと思えます。

ステージⅣ(職務能力発揮期)研修 戦略マネジメント H28.10.4

学校経営ビジョンの実現、策定に参画する事務職員を目指して

講師 足利市立毛野南小学校 事務長 岡崎 信二 氏

採用20～24年目の方を対象に「考える、チーム、意味づけ」の三つをテーマとした戦略マネジメント研修が行われ、51名が参加しました。

午前中は、学校における戦略やマネジメントとは何か、そのために必要なことの講義がありました。戦略とは、学校経営ビジョン(経営方針)の達成に向けて経営資源を効果的に活用していくプロセスです。学校目標を達成するため、学校経営ビジョンを理解し、その実現や策定への参画に向け、戦略的にマネジメントを展開していきます。具体的には、①学校事務の質を高め、②専門性を発揮し、③学校全体を見わたし、④5W4Hで考え、⑤総合力と総合マネジメントを働かせることが挙げられます。

具体的な取組として、野木町立野木中学校 廣田則子事務長から実践事例の報告がありました。教職員全員



が連携し「オール野木中」として課題解決に向かい、事務室もチームの一員として参画する1つの姿が示されました。参加者からは、「事務室も戦力になれる。チームで連携する大切さを感じた」、「組織、事務経営計画がしっかりしている」などの感想がありました。

また事前課題として校長先生と話し、学校長の描く学校経営ビジョンに必要な情報を、経営資源の視点からまとめました。それを基に、その内容をグループで発表しあ

い、事務職員はどのように参画するかを検討しました。

午後は「マシュマロチャレンジ!!」という、「チーム」を作るための演習がありました。同じ目標に向かって何かをやり遂げた後、以前より一体感を感じたことが皆さんもあるのではないのでしょうか。「みんなでアイデアを出し合い一つのものを作っていく過程が楽しかった」、「みんなで協力し達成感を味わう事ができた。これがチームということなのかな」など、演習によって「グループ」(集められた人)から「チーム」(目的や目標を共有した集団)へ変化したことで、自然に笑いがこぼれ、和気あいあいとした雰囲気での研修は進みました。



最後に課題解決型研修として、架空のA校の学校経営ビジョンを読み解き、事務職員ができることをチームで探りました。学力向上やあいさつ運動など、各チームが注目した課題を解決するための具体策や活動を話し合い、予算、情報、地域などの経営資源を活用した計画を練り上げました。「話が広がってまとめるのが大変だけどみんなのアイデアが生かされた」、「知恵を出し合うとよい方向につながる」などチームでの実践を感じられたようでした。

中教審答申やチーム学校など、事務職員への期待は大きくなっています。その期待に応えられる事務職員として学校経営に関わり専門性を活かす、そんな一例になった研修でした。明日からできる実践では「学校経営ビジョンをもう一度読み直し、自分ができることを洗い出したい」、「チームの一員として何ができるか考えたい」、「コミュニケーションを図りたい」、感想としては「足がかりを見つけた」、「同じくらいの経験年数の事務職員と話せてよかった」、「基本を改めて意識したい」といった声がありました。

研修後は、学校経営ビジョンの実現に向けて実際にアクションを起こし、Actionシート③にまとめていただく予定です。受講者のみなさんがどんな実践をされるのか楽しみにしております。

平成28年度共同実施推進会議（リーダー研修会） H29.1.31

文部科学省委託事業 学校の総合マネジメントの強化に関する調査研究

講師 大阪市立安立小学校事務主幹兼大阪市教育局委員会学校事務指導 藤原義朗 氏

平成29年1月31日（火）学校生協会館において、平成28年度の共同実施推進会議を開催しました。これまでの推進会議では各市町より現況や課題を報告していただき、全県実施に向けた共通理解を図ってきましたが、今年度は加えて、共同実施の推進に向けた中心的役割を担うリーダーを対象に、共同実施推進リーダーとしての在り方や意識改革・意識の定着化を図ることを目的とした研修を行いました。

講師として、大阪市立安立小学校事務主幹兼大阪市教育局委員会学校事務指導 藤原義朗様をお招きし「文部科学省委託事業 学校の総合マネジメントの強化に関する調査研究」の施行研修として実施しました。

藤原先生からは、研修の組立てとして

- ①共同実施の目的（目標）探し
- ②共同実施のリーダーであるあなたの目的達成のための行動確認
- ③目的達成のためのロードマップ作り

の3点を示していただき、国の動向や自身のこれまでの体験等も含めた、これからの事務職員の在り方、リーダーとしての役割・機能、能力について講義いただくとともに、マンダラシートを活用した課題解決のためのグループ討議、全事研発行「学校事務職員の研修プログラムモデル及び研修テキスト（事務長編）ver1.0」におけるケースを用いたのケーススタディ等の演習も行っていました。

独特の大阪弁に参加者も初めは戸惑うこともありましたが、時間が経つとともに、藤原先生の語り口、人柄に魅せられ、終始和やかな雰囲気の中にも、明日からのリーダーとしての使命を参加者全員で再確認できたのではないかと思います。

「とちぎ学校事務ビジョン」の具体策である「とちぎチャレンジプラン」は、平成29年度に最終年度を迎えます。とちぎ学校事務ビジョン推進チームでは、29年度内に共同実施の全県実施を目的とした活動を行っています。参加されたリーダーの皆様におかれましては、ぜひ今回の研修を市町において還元していただき、リーダーシップのもと共同実施が推進されますよう、実践に活かしていただきたいと願っています。



栃事研からのお知らせ

29年度 栃事研研修会並びに総会 平成29年5月23日（火）教育会館

29年度 事務研究大会 平成29年12月1日（金）教育会館



◇広報部では随時、会員の活用できる事務処理プログラムなどのデータを募集しています。一つのプログラムが多くを会員を支援することになりますので、皆様のご協力をお願いいたします。ご提供いただける場合は、hp@tochijiken.org まで送信してください。ご不明な点は、広報部長までお問い合わせください。